

「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから」：5。

1. 主の幸いについての御言葉に本当に驚かされる。世の人が考える価値観と徹底的に違う。

世が地のものを獲得、所有するために考えるのは、強さ、力、能力、自己確信、侵略性である。

しかし主の御言葉は明確に違う！主について行くキリスト者の価値基準は世とは全く違っている。本質の相違。キリスト者は御聖霊によって新しく生まれ（ヨハ3：6，7）、神により再創造された新しい人（Ⅱコリ5：17、ガラ6：15）である。世と違う神の国に所属している。

主の幸いな使信には、みごとな順序と関連性がある。

まず「心の貧しい者（へりくだり、自分の弱さ、無力さの自覚）」、次に「悲しむ者（自分の罪を深く自覚し、悲しみ、悔い改める＝空しい後悔ではなく、神に向かって方向転換をする、神に立ち返る）」。さらにこれらが、この「柔和な」心へ到達する。そして、この御言葉は、どれよりも、鋭く、困難で、私たちをへりくだらせ、自己過信を砕く。他の人が、自分の事を評価する事、色々言うのを許すのは、自分で自分の足りなさを認めるよりも難しい。パウロは人々から色々な非難を受けた。しかし、彼は内住の御霊の実（柔和）をいただいて、

「私にとっては、あなたがたによる判定…人間による判決を受けることは、非常に小さなことです。

事実、私は、自分で自分をさばくことさえしません。…私をさばくのは主です。ですから、あなたがたは、主が来られるまでは、何についても、先走ったさばきをしてはいけません」

（Ⅰコリ4：3～5）

と言っている。

また、完全に柔和な方は主である。主は神と等しくある事を、固守すべき特権、どんな犠牲を払ってもかじりついているべき事とは思われなかった。主は、人間として生きようと決心された（クリスマス）。主は自ら低くし、しもべのようになり、私たちの罪のために十字架の死にまでへりくだり従われた。これが柔和である。

御霊の実である柔和は、自分について神経質になる（これは、人類の墮落の結果）事はない。御霊が実らせてくださる柔和は、他の人のうわさに煩わされない、自己憐憫、間違った被害者意識に支配されない。なぜなら、神の前に自分の罪を深く自覚しているから。真実に自分を見つめるならば、自分についてひど過ぎることを言える人はいないことがわかる。人々が自分のことをどう言うか思い煩う必要はない。神はすべてを正しくご存知。神に委ねる。真に柔和な人は、神も、他の人も、欠点、罪、弱さ、失敗の多い立派でもない自分を、こんなに良い者に見て、扱ってくれることに驚いている人である。これは、ガラテヤ6：3，4に通じる

「だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでもあるかのように思うなら、自分を欺いているのです。おのおの自分の行い（心の中、動機も）をよく調べてみなさい。そうすれば、誇れると思ったことも、ただ自分だけの誇りで、ほかの人に対して誇れることではないでしょう」。

2. 柔和（原語：柔和、温順、親切、優しい心＝Ⅰコリント4：21）が使われている他の箇所からも学びたい。

①「正しさ、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和を熱心に求めなさい」Ⅰテモテ6：11。

自分に柔和、優しい心がない時、失望しないで、神に祈り求める事ができる。感謝。私達が、初めて会う方や、これからお世話になる方に、「どのような方ならいいなあ」と願うだろうか？それは、「柔和、優しい心」の人である。なぜだろう。それは、怒るのに早い人とは、関係を築く事が難しいが、柔和で優しい心の人とは、最も大切な人間関係を築き易いからである。柔和で、優しい心の人、一方的に話すのではなく、良く、聞いてくれる人である。聞く事と語る事のバランスが、良い関係作りの基礎である。

②「もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心（自分も弱さが多く、自分も誘惑に陥り易い。ただ神の憐みと人々の祈りの支えで守られているという自覚からの優しい心）でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい」ガラテヤ6：1。

私達は皆、上から目線で正されるのと柔和な心で正されるのでは、受け止め方が変わる。柔和な心から出る言葉は、心に届く。柔和な人とは、正すだけではなく、相手の事情に耳を傾ける人である。

3. 柔和な人たちは「地を受け継ぐから」とは→すでにこの地上において地を受け継いでいる。

つまり真に御霊に支配され柔和な人は、いつでも主にあって（主と霊的に結合していのち、養分を受け主御自身を喜び）満ち足りている。

「私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。…富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くしてくださる方によって（あって：霊的結合）、どんなことでもできる（満ち足りる）のです」（ペリ4：11～13）。

4. 励まし。

聖書に、「あなたは、あなたの方で、柔和な人になりなさい」と命じられていない事を感謝したい。

私達は、自分の力で、自分の心に柔和を生み出す事は決してできない。その事を神は良くご存知である。それ故に、柔和を祈り求めなさいと言われる。父なる神は祈り求める私達の心に柔和を与えて下さる。子なる神、イエス様も正に柔和な方なので、主と交わり、主につながる時、主から柔和な霊的養分が私達の心に与えられる。又御霊なる神が私達の心に結んで下さる実は、

「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」ガラテヤ5：22、23

である。三位一体の神が、自分の罪を悔い改め、神に立ち返り、祈り求める私達に素晴らしい柔和、心の優しさという徳を与えて下さる。感謝します。